

# 研究通信

No. 65

1968. 12月刊  
村落社会研究局  
大学部  
関西学院大学内  
会事会

二、運営委員より報告があり、承認された。

三、昭和四三年度編集委員会報告。福武直委員より年報第四集の編集経過及び、「村落社会調査研究叢書（仮称）」刊行の進行状況について報告。

## 四、運営委員会提案議題

村落社会研究第五集の原稿を左記により公募します。  
申込〆切：十二月十日（題目、サブタイトル乃至内容の説明二、三行を添えること）

原稿〆切：二月末日

原稿枚数：八〇枚（四百字詰）程度

尙、この公募原稿は大会研究報告者に依頼する原稿とは別に一般会員から寄稿してもらうものであります。念のために。

## 第十六回村落社会研究会 総会記事

期日 一〇月二二日㈭ 午後四時四五分より

場所 鎌倉市 若宮荘

議長 愛知大学 川越淳二会員  
議題及び議事内容の概要について

一、昭和四三年度運営委員会報告。事務局担当の中野卓運営委員より、昭和四二年一〇月以降全四三年九月末日までの一年間に実施した事業内容の概要について報告。

二、昭和四三年度会計決算報告。別掲の資料にもとづいて、北原竜

に対して、課題研究会は次年度以降も是非継続したいという会員の要望が強く、結局、会費値上げを認めることになったが、その際値上げの幅については、委員会案では低いのではないかといふ意見もあったが、一応次年度は委員会提案の七〇〇円に決め、それでもなお不足の際にはその時に再検討し、二年連続会費値上げすることがあつても止むを得ないということで、委員会原案通り会費七〇〇円に決定した。

尙、会費の改訂に伴う新会費七〇〇円の発効は、この総会終了直後から納入される四四年度分以降とする。また既に次年度以降に及んで会費を納入された分についての会費値上げによる不足額は

徵集しないことに決めた。

(2) 会計年度と大会開催の年度名称の確認。会計年度については、既に昭和四二年二月二二日の運営委員会で確定（研究通信五六号掲載）の通りであるが、会員の間にまだ充分徹底されていないのでこの際再確認したい。

会計年度は一〇月一日より翌年九月三〇日迄とする。また年度の名称については、一〇月より一二月までと、翌一月より九月までの兩年度にまたがることになるが、名称を統一するために、翌年の年号を用いることにしたい。また、その際、大会開催時は、例年一〇月一日以降になつており、右の年度名称の原則に従えば、翌年度の年号を用いなければならぬのであるが、大会主催は前年度の事務局が行うことになるので、大会の年度名称は会計年度にとらわれず、大会開催時の年号を用いることにしたい。尙、大会時の会計は、「特別会計」として取扱う。以上の点について中野委員より説明があり、承認された。

(3) 会計監事の設置について。北原委員より提案理由の説明がなされた。その結果、会員の中から「村研は会員相互の信頼にもとづいている研究団体であるから監事をとくに設ける必要はない」という意見が出され、監事の設置を積極的に望む発言はなく、結局この提案は否決した。

五、次期（昭和四三年一〇月より全四年九月まで）運営・編集委員の改選について。本年度は昭和四一年に選出された運営・編集委員会の任期満了に伴う委員の改選に当つては、次期両

委員を選出する議題に入る。その結果、推薦委員を投票で選出し推薦委員会において委員を決定するという前回の方式を探り、投票に移る。投票の結果、左の七名が推薦委員に選出された。  
竹内利美、小池基之、福武直、中野卓、島崎稔、川越淳二、余田博通

六、次期事務局の決定。次期事務局は、大会開催地をも勘案して決定するこれまでの慣例に従い検討された。来年は、日本社会学会の大会開催地が島根大学であり、村研会員には社会学会の会員が多いことから、関西ないし西南地方で開催の希望があつて、関西学院大学（余田博通会員代表）に交渉した結果、快諾をえられたので満場拍手をもつて次期事務局を関西学院大学に決定した。

七、村研事務局東京連絡所の設置について。事務局の地方移動に伴い東京に連絡所を設ける必要があり、慶應大学（小池基之会員代表）に交渉の結果、快諾がえられたので、次期事務局の決定同様満場拍手をもつて依頼することに決定した。

八、次期大会共同課題について。大会終了時までに意見や提案を事務局まで提出して貰い、運営委員会で決定することにした。

以上

## 第十六回村研大会を終つて

前号既報のように一〇月二二日二三日の両日鎌倉市由比ヶ浜の国家公務員共済組合連合会保養所「若宮荘」において開かれた大会は

二一日の国際反戦日に於ける東京での一通混亂が翌朝にも及んで一時間開会を延ばさざるをえなかつたが参加者九〇余名という盛会であつた。

参加申込者は開会直前まで一〇〇名ちょうど、うち宿泊せずに参加と申込んだ人が一二名、宿泊による参加申込者は前号既報の六四名よりも大巾に増えて八八名に及んでいた。実際に二二日夜に宿泊した人数は七六名になり一二名の減少を見た。二一日夜だけ宿泊して二二日だけ参加して帰られた人もあり、刻々の移動が激しいのも今大会の特徴の一つであった。各地で大学紛争が続出する最中のこととて仕方のないことではあつたが、取止めの申出なしに取止めた人、取止めの申出が間に合わなくなつてから知らされた人などが続出し、宿泊費、食費共に収支あいつぐなわなくなつてしまつた。最初の申込みと以後の変更申出と現実の行動の三つが一致しなかつた人々が多数あり、最初の申込みだけはあつたが変更申出もなく欠席された人々だけでも九名あつた。懇談会出席を申込んでいて変更申出をせずに出てなかつた人は最少限六名はあつた。昼食の変動は数えきれない。変更申出時に払込み金の一部を返金したが宿舎側からもはや間に合わないとして数を減らしてもらえたかった場合がおびただしく、間に合う場合もないわけではないため一律に返金しないことにもできなかつた。前号において当日現地での受付けは致しかねると予告してあつたのにかかわらず当日突然あらわれる人々もあり、それも、隨時そういう人が出現するので、他方では、申込み変更を予告することなく急に直前に取消して払いもどしを受ける人や

取消もせず身を消す人あるという状況のなかでしたから、消える人数を予想して申込数を勝手に減しておくというような冒険も致しかねた次第です。

大会特別会計の報告に示されているように五万五八九五円という赤字は、一部は会議場料八〇〇〇円と、一〇時から三時までの各部屋の使用料（「休憩料」として請求された）として更に八〇〇〇円、合計一万六〇〇〇円の支出を事務局が下交渉した際に聞き出しえなかつた手落ちによるものであつて、この分については当番校がカバーしてしかるべきものと考えました。それにしても、残り三万円ほどで引受け、残り三万五八九五円は、前記のような違約続出によるものとして会自身が支出するほかないと判断しました。しかし、かかる処置は誠に残念なので、違約についてお心当りの方々が右の明細書きを参照して新事務局あてお払い込みいただければ幸いです。

二二日昼食一八〇円、懇親会夕食八二〇円、宿泊五九〇円、二三日朝食九〇円、昼食一二〇円、夕食三二〇円、宿泊五九〇円、二四日朝食九〇円

いずれにせよ、当番校事務局が、大学紛争もともなつてこれほど多数の違約者が出現するということを事前に予期しえず、それに対応してあつたのにかかわらず当日突然あらわれる人々もあり、それも、隨時そういう人が出現するので、他方では、申込み変更する対策を講じえなかつた責任はおおえないと反省しております。それへの対策としては、大会参加者の一人払込んで下さったお金

はその後の変更による払いもどしにはいつさい応じないという方法によつてでなければ処理しえないと決断し心を鬼にして払いもどしを拒否すること、また、申込んでおいて予告なしに取止めた人は参加しなくとも請求しなければならないということを予告しておくことが不可欠でした。これらの対策を構じておかなかつたのが赤字を生じた理由の最も根本的なものとなりました。将来の大会運営のため参考にしていただければ幸いです。共済組合等の役所的な施設を利用する場合、これは必ず起りうる問題であつて、今年のように全国的な大学問題が同時に頻発する特殊状況ではなくても、大なり小なり、これまで大会を引受けたところで同種の経験をなさつてゐるのではないかと思います。宿泊を伴う大会を最小限の経費で実施しようとする限り、会計をなりたたせるためには、参加申込み者各位のこの点に関する協力なしには、会が成立しえないと云ふことを痛感しました。大会終了後、少数の方々からの参加取消し通知が配達されて来ましたが、そういうことさえもない場合の方が残念ながら多かったのも事実でした。以上のことは、勿論、直前にでも、取消しにまにあう時期に遠距離電話や速達便などでお知らせがあり、申込みを若宮荘に對して有効に事務局の手で取消すことでのきた件に相当する方々の場合とは無関係です。

たいへん、書きずらることを余りむきだしに書いてしまつて申訳けないとも存じますが、誰かが何時か書いておかなければならぬことであろうと存じ、思いきつてあらいざらい御報告し、御批判を乞うことに致しました。

## 第一回運営・編集合同委員会

期日 一〇月二三日㈭ 午後四時三〇分より

場所 鎌倉市 若宮荘

出席委員 黒崎八洲次良、島田隆、島崎穎、高山隆三、川本彰、服部治則、牧野由朗、後藤和夫、余田博通、村長利根朗、松本通晴（以上運営委員）、小池基之、中野卓、布施鉄治、蓮見音彦、柿崎京一、安原茂（以上編集委員）、計一七名

○次期大会開催地について。総会記事にもありますように、来年度の日本社会学会大会が島根大学で開催を予定していることに関連して、村研大会も、京都より以西の関西地方で開催することにし具体的な選定は事務局に一任することに決定した。

○次期大会日程について。これも、日本社会学会の開催日時に合わせ、社会学会大会の日時に間一日置いて前二日間を村研大会の日時にすることとに決定した。具体的な日程は、事務局より後日研究会通信を通じて発表する。

○共同課題の研究会は、会員の比較的かたまつてゐる各地区ごとに開催し、その内容を研究通信に逐次掲載することにした。研究会

の具体的な計画・進行は事務局で行う。

○次期大会には、共同課題報告のほかに自由報告をもあわせ実施することにした。報告者の応募方法については後日事務局より研究

通信を通じて発表す。

以上「運営委員会」記事。

○村落社会研究第五集の原稿依頼について。

大会研究報告者の三名に原稿依頼を交渉する。

研究会報告者の三名に寄稿の希望ある場合には原稿を依頼する。

「共同課題」をめぐる討議の統括について司会者団を代表して安

原茂会員に原稿依頼する。

○村落社会研究第五集の原稿の公募については別掲記事参照。

○全 研究動向の執筆者依頼について。

次回編集委員会において決める。

以上「編集委員会」記事。

運営・編集委員選出のための  
推薦委員会報告

推薦委員会は、一〇月二二日、午後八時三〇分より開催された。

席上、從来、村研の運営はとかく東京在住の会員を中心に行われていた傾向のあったことを反省し、この際、地方会員の積極的な参加を期待することが研究会の活動をより一層活潑にするために大切であるとの結論に即し、新委員を推薦した。

○運営委員

安孫子 駿 小樽市長橋二一一二一

黒崎八洲次良 函館市八幡町一一一八

島田 隆 仙台市小田原北三番丁通五R.O南一五

塚本 哲人 宮城県多賀城町旭ヶ丘多賀城公務員住宅六五

島崎 植 新宿区中落合三一一一四

○編集委員	福 福直	世 田 谷 区 代 田 六一三一一〇	官 崎 俊 行	杉 区 善 福 寺 一一二二一三〇
	小 池 基 之	藤 沢 市 鶴 沼 鹿 ケ 谷 三一一三一三	高 山 隆 三	杉 並 区 永 福 町 三四六
	中 野 卓	武 藏 野 市 吉 祥 寺 北 町 一一一〇一一六	川 本 彰	所 沢 市 新 所 沢 団 地 一三五一七
	布 施 鉄 治	杉 並 区 天 沢 三一三八一二一	服 部 治 则	甲 府 市 尾 形 二一一一九
	蓮 見 音 彦	中 野 区 中 野 六一四一五	村 長 利 根 朗	愛 知 県 宝 飯 郡 小 坂 井 町 平 井 東 野 地 二〇一
	柏 嶋 京一	中 野 区 若 宮 二一五 六一一二一七	牧 野 由 朗	豊 橋 市 植 田 町 大 池 六〇一五八
	安 原 茂	三 一	後 藤 和 夫	豊 橋 市 牛 川 町 南 台 三 九
	園 田 恵 一	世 田 谷 区 成 城 町 九〇四	余 田 博 通	大 阪 府 箕 西 市 桜 ケ 丘 一一四一二七
		東 京 都 北 多 摩 郡 久 留 米 町 ひばりケ丘 団 地 二六一	光 吉 利 之	大 阪 市 東 淀 川 区 三 津 屋 中 三一三四
			松 本 通	京 都 市 東 山 区 山 科 音 羽 千 本 町 二四一四
			原 法	山 口 市 宮 野 桜 崎 女 子 大 公 舍 二
			内 藤 莞 爾	福 岡 市 平 尾 净 水 町 八 九 六

○村研事務局

関西学院大学社会学部(余田・光吉委員)

## ○東京連絡所

慶應義塾大學經濟學部 小池教授研究室（小池・宮崎・高山委員）

戸塚博允 東京教育大學農學部

## ○編集委員会連絡先（福武委員）

文京区本富士町一 東京大学文学部社会学研究室氣付

（但し、当分の間自宅に連絡下さい）

## 新入会員紹介

水山栄子 慶應義塾大學大学院法學研究科

東京都世田谷区桜丘三丁目三三一八

電話 ○三一四二九一七一六七

多々良 翼 東北大学大学院

仙台市八軒小路一〇

矢内 論 東北大学大学院教育学研究科

宮城県玉造郡岩出山町二ノ溝二二一

今泉芳邦 東北大学大学院

宮城県鹽釜市尾島町二〇一一三一

佐藤 正 岩手大学

岩手県盛岡市上田緑ヶ丘一一五

森 芳三

山形市小姓町五一一〇

## 会員名簿の訂正

大坪省三

塩入 力

白井 尚

白井宏明

白樺 久

菅野俊作

民秋 言

戸谷 修

西川善介

服部治則

東京都文京区大塚四一三四一九

札幌市厚別町下野幌四三五 市営住宅二一三〇三

札幌市立女子短大

岐阜市立女子短大

専修大学

山梨大学教育学部

甲府市屋形二一一一二九

東京都中野区松ヶ丘一一四一三

大阪府富田林市平町二一五一

北海道大学文学部

東京外国语大学アジアアフリカ研究所

富川盛道

三浦愁明

（四三年

月二二日、島田隆会員よりご連絡）

「研究通信」前号以降の会費納入受入れは別表の通りですが、事務局の手違いで、二名の会員について会費の額を誤つてしまいまし  
た。二二日夕刻の総会の決定によ  
り、会賃年額が七〇〇円となりま  
したが、この改訂額はこれから納  
入する四四年度分以降に適用する  
ことになつていながら、田野崎、  
余田の両会員より、四三年度分と  
して七〇〇円を受入れてしまいま  
した。深くお詫びいたします。

両会員には二〇〇円をお返しい  
たすべきであります、少額であ  
りますので、返送料金をも考慮し  
て四四年度分の一部として繰入れ  
ることいたしました。勝手なが  
らご諒解を得たいと思います。

### 會費受入報告

## 会計報告資料

- 1.) 「研究通信」印刷費 58,100円  
 № 59 7,700円 № 61 4,200円 № 63 12,600円  
 № 60 7,000円 № 62 2,660円
- 2.) 「研究通信」郵送費 2,180.5円  
 № 59 3,300円 № 61 3,285円 № 63 4,560円  
 № 60 3,240円 № 62 7,420円
- 3.) 印刷費、郵送費の合計 79,905円(約8万円)
- 4.) 「研究通信」一回の平均経費  $8\text{万} \times \frac{1}{5} = 16,000\text{円}$
- 5.) 会費納入状況
 

41年度以前	54,300円
42年度 分	17,000
43 "	22,500
44 "	8,000
45 "	4,500
46 "	2,000
47 "	1,000
48 "	500
- 6.) 会費納入会員 150名として
  - ① 500円(現行)会費の場合
  $\text{収入 } 500\text{円} \times 150 = 75,000\text{円}$   
 研究通信  $16,000\text{円} \times 4 = 64,000\text{円}$   
 $\underline{11,000\text{円}}$
  - ② 700円会費の場合
  $\text{収入 } 700\text{円} \times 150 = 105,000\text{円}$   
 研究通信  $16,000\text{円} \times 4 = 64,000\text{円}$   
 $\underline{41,000\text{円}}$

## 昭和43年度 会計決算報告

昭和42.11.30-43.9.30

<u>収入の部</u>		195,205円
<u>内訳</u>		
会 費 収 入		109,800
前 年 度 繰 越		81,905
雜 収 入		3,500
<u>支出の部</u>		122,061
<u>内訳</u>		
「研究通信」印刷費		58,100
同 上 郵 送 費 用		2,180.5
研 究 会 費 用		3,765
通 信 ・ 交 通 費		9,101
消 耗 品 費		3,830
備 品 費		2,610
ア ル バ イ ト 代		2,850
大 会 会 場 予 約 金		20,000
<u>次年度繰越</u>		73,144
貸 付 金		20,000
		93,144

村研究の研究動向（現在進行中のテーマ）

伊藤 章

入会権の調整に関する研究

岩本由輝

- (1) 盛岡・八戸藩内産鉄の領外交易について  
 (2) 明治初年 宮城県志津川町における製糸マニアについて

Erwin Johnson

Village Life—Family Structure

大津昭一郎

透洋漁業の社会学的研究

かつね・まぐる漁業の近代化と漁業村落の変容

川越淳二

漁業村落の研究

真珠産業の構造改善に関するもの

川本彰

都市化と農村

喜多野清一

日本の親族組織

君塚正義

- (1) 水田単作地帯の村落構造と農家労働（生産・生活）合理化対策

大会特別会計報告

〔収入〕

大会参加費	500円×88人	44,000
食事、宿泊、懇親会費		144,430
一般会計より補充		35,895
事務局負担		20,000
		244,325

〔支出〕

若宮荘支払い	211,410
会場予約金返済（一般会計へ）	20,000
アルバイト代（上木、本人の宿泊費などに充当）	2,480
アルバイト代（学生3名）	3,000
大会諸雑費	6,635
大会残務処理事務費	800
	244,325

(2) 山村の社会構造と農家生活

黒崎 八洲次良

- (1) 近代日本の部落の成立と展開について
- (2) 氏神の祭祀組織と村落の権力構造

小池 基之

資本主義における土地所有の論理

酒井俊二

コミュニケーションの側面からみた村落の現象的把握

菅野正

- (1) 戦時体制下における村落支配の問題
- (2) 村落支配における官僚制化の問題

鈴木勇次

村落構造の再編成に関する一考察

—山梨県南都留郡秋山村の事例を中心にして—

島田隆

近世・明治期、東北農漁(業)の構造

白樺久

農業労働力不足に対応した臨時労働力組織について

—組形成とその発展—

村長利根朗

暮末、紀州藩尾鷲大庄屋組の漁村の研究

高山隆三

製糸資本の蓄積過程分析  
—製糸經營と養蚕農家—

武田良実

- (1) 信州南部山間地帯における人口流出の実態及び過疎対策
- (2) 隊村における通婚圈

塙本哲人

- (1) 水田单作地帯における家族と村落の変動論的研究
- (2) 過疎地帯における「地域開発」の問題

戸塙博允

現代日本資本主義と農業・農村問題—経済社会学的考察

内藤莞爾

△末子相続△の社会学的調査研究

中田実

真珠養殖漁村の構造と変動について  
—漁民層分解と漁村の組織—

中野卓

S. Linhart  
北海道と本州の農村における社会変動比較

- (1) 府中市近代史（府中市の町部と農村部）
- (2) 定置網漁村社会の研究（昭和期）（佐渡・能登）

二 宮 哲 雄

- (1) 農村社会の変動と計画  
(2) 近郊農村地域社会の分析

蓮 見 音 彦

現在のところ、次の二つのテーマを農村研究についてはもつています。

- (1) 戦後農村社会の変動過程  
(2) 日本農村社会学史の再検討

長谷川 昭 彦

交通機関の発達と農村社会

原 宏

村落構造と祭祀組織

福 武 直

農漁村社会の構造と展開

- (1) 農民の社会的性格十五年前と比較

星 永 俊

村落社会の変動と社会教育の課題

細 谷 昇

農民層分解と農民組織の展開

松 本 通 謙

- (1) 近畿北部村落の株内・親方子方について  
(2) 濱戸内村落の社会変動について

村 武 精

- (1) 東南アジア民俗社会・文化の構造  
1. 日本地・琉球・朝鮮・漢系文化における祭祀組織と社会構造

会構造

- (2) 東南アジア焼畑農耕民社会の変化  
1. とくにフィリピン諸種族を中心に

八木佐市

村落社会の伝統性・変動性

矢内論

村落社会における近隣關係の研究

安原茂

1. 主として山村の部落を中心とした実証的研究

日本資本主義論と農村社会学

吉沢四郎

- (1) 林業労働に関する研究

- (2) 利根川流域の農山村の社会学的研究

米地実

村落祭祀構造論

- (1) 国家統制との関連において  
(2) 有賀先生の村落祭祀論の再整理

若林敬子

教育の場としての地域の構造論理

「学区と町村合併」

## 事務局よりお願ひ

### ◇ 大会運営方法について

今年度大会は、第一日目全部を共通課題をめぐる報告に、

第二日目全体を共同討議にあてましたが、今年度の経験からみて来年度の運営方法全般について、新しいご提案がありましたら事務局までお知らせ下さい。

### ◇ 共通課題について

来年度大会の共通課題については、運営委員会で早急に検討する予定ですが、会員の皆様のご意見も参考にしたいと思いますのでご意見をおよせ下さるようお願いします。

なお、運営委員が全国に散在されているため、運営委員全体の会合をもつことが困難ですので、できましたら各地区毎にご意見をとりまとめていたたいた上で事務局にお知らせ下さい。

されば幸甚です。また、運営委員の方々の個人的なご意見もどしどしあよせ下さい。（さしあたって十二月末日までにお知らせ下さい。）

### ◇ 会費納入について

印刷費の値上がりなどで財政状態が非常に悪化しています。

会費未納の方は至急納入して下さい。

## 編集後記

鎌倉の大会で突然事務局をおひきうけすることになりました。目下のところ事務局は甚だ弱体であります。ご期待にそえるかどうかを危惧していますが、研究会の発展のために微力をさしだげたいと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

事務局引継ぎ後急いで編集にかかりましたが、慣れない作業なのでいろいろ不手際があると思います。ご寛恕下さい。だんだん充実したものにしていくことを願っていますのでご支援をお願いします。